

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立 晴海中学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	【4月】 昨年度の課題として、1年生（現2年生）は、領域別正答率では「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の全ての領域、問題の内容別正答率では「漢字を書く」以外の全ての内容で全国平均正答率を下回っている。また、2年生（現3年生）は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、領域別正答率では「漢字を読む」「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」が全国平均正答率を下回っている。 【10月】
算数・数学	【4月】 昨年度の課題として「関数」分野の校内平均正答率が全国平均正答率と比べ1.3%低くなった点と観点別正答率での主体的に学習に取り組む態度が全国平均を1.6%下回っている点が課題である。身近で活用される数学に触れる機会を増やし、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整えるとともに基礎・基本の知識・技能の定着を今年度の目標とする。 【10月】
社会	【4月】 昨年度の課題として小学校段階からの知識の定着が乏しいことがあげられたため、学習してから時間が経過した範囲における知識の保持を促す。進級した際に知識量が低下することを防ぐために小テストによる習熟度チェックで無回答を5%以下にすることを目標とした。その目標は概ね達成できたため、今年度は定着した知識を思考・判断・表現に落とし込むことを目標とする。 【10月】
理科	【4月】 昨年度における課題として、知識・技能の観点における正答率が全国平均を下回っていることがわかった。知識の定着を目指し、小テストや自分の言葉で説明させるなどの機会を多く設ける必要がある。また、技能の定着に向けて、実験に限らず、実物に触れる時間を増やし、身近なものと捉えられるように促していく。今年度は、知識・技能の定着を目標とする。 【10月】
英語	【4月】 昨年度の課題としては、書く力のポイントが全国平均を下回っていた。授業で話したことを書いたりするなどして、活動の終末が書く活動で終わるような機会を作っていきたい。引き続き、長所である話す力は伸ばしつつ、それを文字に起こす力も高めていきたい。 【10月】
体力向上	【4月】 「持久力・筋持久力」を必要とする種目が低い傾向にある。男女とも共通した結果から、授業内で補強運動を継続的に実施することが課題である。 【10月】

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】 漢字の読み書きの力を全国平均正答率まで上げる。文法や語句の知識問題の正答率を上げる。 【１０月】	漢字の読み書き能力を向上させるために、漢字テストを定期的に行う。文法や語句の知識を定着させるために、反復学習を行う。
算数・数学	【４月】 関数の分野において、知識・技能を定着させる。また、生徒が見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 【１０月】	関数の分野において、知識・技能が定着するように視覚的にわかりやすい教材を用いて授業を進める。また、生徒が見通しを持てるように授業で毎回単元の流れを提示するようにする。
社 会	【４月】 知識・技能の定着を思考・判断・表現につなげるために、単元全体として課題解決型授業を展開し、生徒が見通しを持ちながら学習できる取り組みを行う。 【１０月】	学期に２回の課題解決型授業の実施と、授業内における生徒の活動を正しく評価するための評価プランの構築を行う。
理 科	【４月】 知識・技能の定着を実現するために、生徒自身が発言する機会や、実験を重要視した授業展開をもとに行っていく。 【１０月】	毎実験ごとに、班での考察の共有を行う。また単元に１回以上、実験計画の作成を行い、見通しをもって実験し、知識・技能の定着を図る。
英 語	【４月】 自分の考えを話し、その話したことを文字にする活動を積極的に行っていく。また、自分が書いた文章を話すという逆の視点からの活動も取り入れていく。 【１０月】	自分の考えを話し、その話したことを文字にする活動を積極的に行っていく。また、自分が書いた文章を話すという逆の視点からの活動も取り入れていく。
体力向上	【４月】 新体力テストでは、全学年全国Ｔスコア５０を目標とし、平均を超える取り組みを行う。 【１０月】	授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合陸上、体育的行事との取り組みに関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。

個別最適な学びと協働的な学びの充実

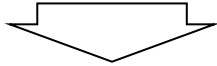
取組	本校の研究テーマである「生徒が意思を持つ単元計画」を実践し検証する中で、生徒が選択する場面を意図的につくり、主体性の向上を目指す。具体的には数学科の自由進度学習、理科の実験計画・実践・共有等の他、全教科で個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
----	---

探究的な学びの充実

取組	理科における自由研究、社会科における国調べ、技術科におけるパワーポイント作成、総合における各行事の事前学習など、各教科においてテーマに合わせた調べ学習と発表方法の指導と発表の機会の充実を図る。
----	--

読解力の育成

取組	各学年モーニングタイムにおける朝読書の実践、第二学年国語科においてビブリオバトルの実施によって読書習慣の定着をはかる。 言語教科の国語科、英語科における長文読解、発表の機会の充実により読解力の育成に励む。
----	---



3 取組結果の検証

	令和7年度の実践の成果	令和7年度の実践の課題と解決策
国 語		
算数・数学		
社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	